

慶応義塾大学医学部 整形外科教室研究室訪問レポート

(消化器内科 丸山記)

2023年2月10日、慶応義塾大学医学部整形外科教室の脊髄再生班の研究室を丸山、三井田、上村(博)で訪問させて頂き、スタッフの柴田峻宏先生よりお話を伺いました。柴田先生は脊髄損傷の再生を促すリハビリについて研究されており、*STEM CELLS Translational Medicine* のオンライン版に論文が掲載されたばかりです。神経再生の iPS 細胞移植と運動負荷による神経再生の効果について各種因子で解析されてその効果を証明されました。実験で使用されていた室町機械社製のトレッドミル装置について詳しい説明を受け、実際にマウスが走る場面を見学させて頂きながら、我々が研究している肝臓リハビリに絡めて、実際に運動をさせる際に問題となる点など貴重なアドバイスを頂きました。



また、研究室には Caliper 社製の in vivo imaging 装置のほか、脊髄損傷モデルマウスの作成に必要なインパクト装置、電子顕微鏡なども備わっており、研究室の皆さんが働きやすい環境が整えられていると感じました。



我々が今後課題とする肝筋相関について様々なヒントを頂戴しました。また、第2の肝臓といわれる筋肉については、整形外科領域でも取り扱っている分野が少なく、今後大きな発展が得られる領域との共通認識であり、慶応大学整形外科およびリハビリテーション科との交流を今後も続けていく約束をしました。

今回の訪問を通し、研究室で見聞きさせて頂いたことを今後の我々の研究にも十分に生かしていきたいと思います。お忙しいなか快く訪問を引き受けてくださった研究室主任の名越先生、実際に案内をして頂いた柴田先生、ほかスタッフの皆様、誠にありがとうございました。